

7月に入りましたが、梅雨明けはまだ先のように、蒸し暑い日々が続いています。暑さ対策に、アサガオやゴーヤで「緑のエコカーテン」に取り組んでいます。みなさまは、どのような対策をしていらっしゃいますか。

「血管内治療について」

循環器内科 診療部長 笠松 謙

今年1月より当病院に赴任してまいりました循環器内科の笠松です。

大学卒業後今年30周年となりましたが、そのほとんどを地方病院の循環器内科で働いてまいりました。こうした病院では循環器の救急疾患への対応を求められることが多く、必然的に循環器の救急で頻度の最も多い狭心症、急性心筋梗塞に対する血管内治療を主に行うこととなりました。

冠動脈への血管内治療が始まって約40年がたちます。この間に器具の進歩に伴って適応が変化してきました。30年前は急性心筋梗塞に対するカテーテル治療は禁忌とされて、専ら安定狭心症に対する待機的治療とされていました。

その後、ステントの開発で急性心筋梗塞への血管内治療は飛躍的に適応されるようになり、死亡率は約3分の1になりました。それからは年齢的な制限も考慮されなくなり、とにかく狭窄性病変＝血管内治療という時代が当分続きました。

ところが、最近アメリカの大規模臨床試験でこうした傾向に警鐘を鳴らす結果が続いています。血管内治療の前に本当にその病変が心臓に悪影響(心筋虚血)を及ぼしているかよく評価するようにとの警告です。よく考えれば当たり前のことですが、内科とは手技に溺れるのではなく、病態を洞察して治療を選択する医療の原点を改めて認識させられている気がします。

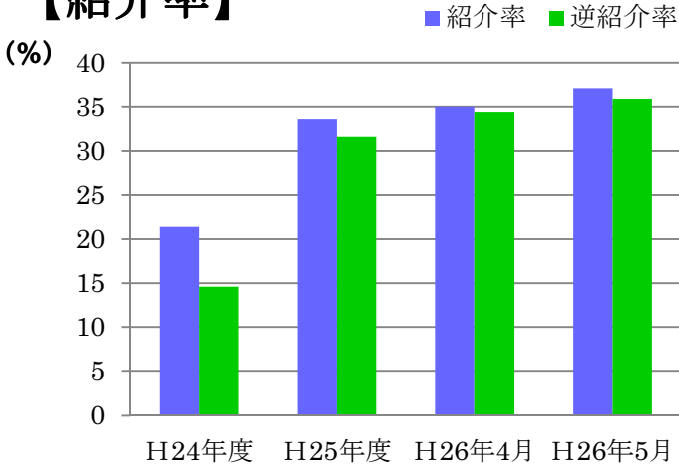
世の中はEBM(最近少し怪しい話が国内にはありますが)の時代です。根拠を説明できる適正な治療を心掛けたいと思います。

医師変更・休診のお知らせ

日付	診療科	医師名	内容
6/26~	婦人科	間瀬 聖子 医師 → 澤田 祐季 医師	毎週木曜日
7/1・7/4	泌尿器科	安積 秀和 医師 → 南館 謙 医師	医師変更
7/3	外科	角田 直樹 医師	休診
7/4	外科	角田 直樹 医師 → 神谷 保廣 医師	医師変更

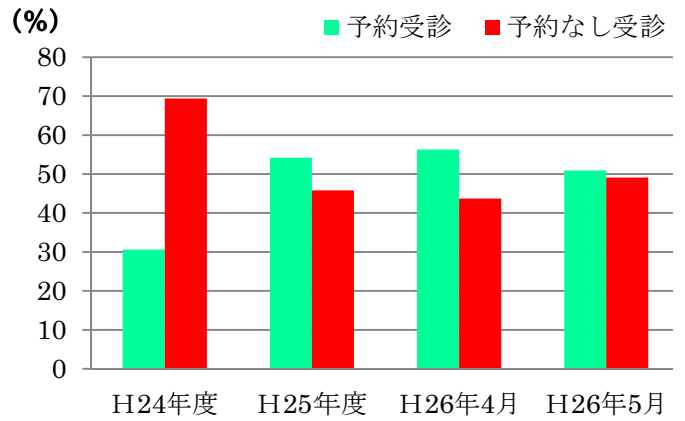


【紹介率】

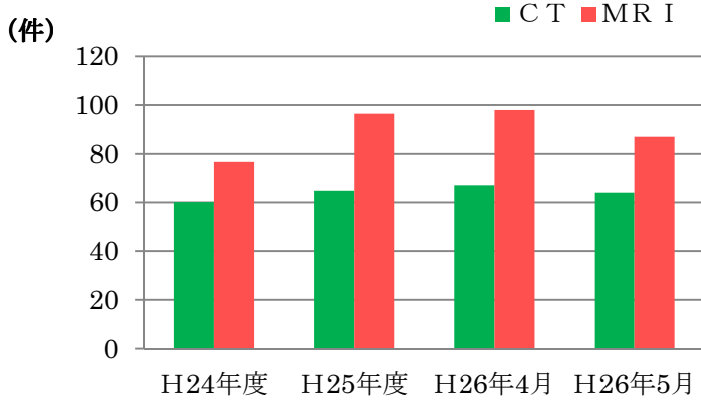


※地域医療支援病院の紹介率で計算

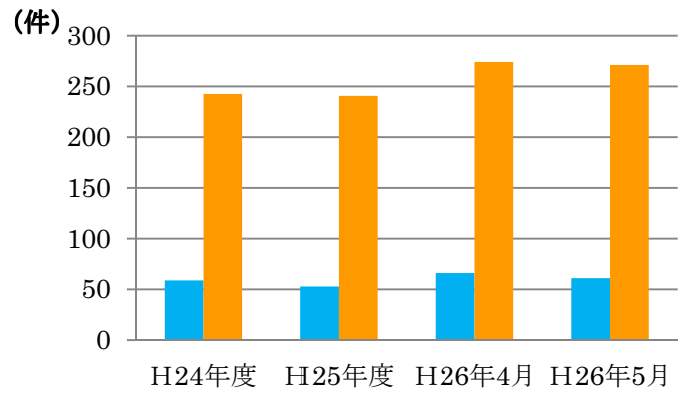
【紹介患者予約率】



【医療機器利用件数】



【医療相談件数】



第66回 病診連携システム合同研究会 を開催しました



「心筋虚血の新しい検査」
循環器内科 笠松 謙 部長



「変形性膝関節症の治療」
整形外科 服部 明典 部長



「泌尿器科領域での悪性腫瘍治療の現状」
泌尿器科 南館 謙 部長



平成26年6月10日(火)、第66回病診連携システム合同研究会を開催いたしました。

医師会の先生方や当院医師等58名が参加し、聴講いたしました。